

## P314b SonotaCo Network のデータを用いた各流星群における放射点の離散度調査

土屋智恵, 佐藤幹哉, 渡部潤一 (国立天文台)

同一の流星が複数の地点で同時に観測されると、その流星の軌道要素、放射点などが求められる。これら個々の流星の放射点を天球図上にプロットしていくと、流星群の場合は天球図上の決まったある一点に集まるため、流星群と認識することが可能となる。

通常、流星群の放射点は小さくまとまるが、流星群ごとに放射点分布の広がり具合（以下、離散度と呼ぶ）は異なることが以前より指摘されている。特に対地速度の遅い流星群の場合、軌道要素が似ていても同じ流星群とみなされないほど放射点の離散度が大きい。これは同じ流星群に属する流星であっても、もともとわずかに異なる軌道要素と速度を持っているという本質的な原因のほか、地球速度や天頂引力、観測誤差による影響があげられる。中でも最も大きな原因として考えられるのが地球速度による影響である。流星は流星体の地球への突入速度と地球の公転速度による合成ベクトルによってその対地速度が決まる。したがって本来の放射点を知るには、観測されたデータから地球の運動をベクトル的に差し引く必要がある。このような補正を加えることで、活動が見逃されてきた流星群の発見や、観測時のデータ評価にも役立つことが期待される。

今回は日本国内のビデオ観測ネットワークである「SonotaCo Network」のデータを使用し、速度の異なる主要な流星群の放射点の離散度への影響を調査した結果を報告する。